西郷隆盛 奥山家と松の木

19 世紀半ば、古い松の下でのこの場所で、歴史上最も有名な武士のひとりが、日本史の大きな転機にこの国の未来について思索にふけりました。

西郷隆盛（1828-1877）は薩摩藩の家臣でした。彼は、崩壊に近い状態にあった徳川幕府から天皇へと政権を移す時が来たと信じていました。1862 年、西郷は江戸で捕えられ、幕府に敵対する活動を行なった罪で徳之島へ流刑に処され、今度はさらに遠方、奄美群島の南にある沖永良部島に流刑にされました。

彼は 17 日間をこの島で過ごし、その間ずっと奥山家に滞在しました。西郷が非常に長い時間を庭にあるこの大きな松の木の下で日本の未来のあるべき姿について考えながら過ごしたことから、この木は腰掛け松（seat-pine）として知られるようになりました。

いかつい身体と力強い顎を持った西郷は、島の人々に強い印象を与えました。強い印象を与えたのは彼の姿だけではなく、彼のより良い日本のためのビジョンも同様でした。その中には「役人は正義でなければならない、そうでなければ人々を導くことができない」「私は国のためにすべてを差し出すので、あなたも歯を食いしばって全力を尽くしてほしい」などの言葉がありました。

西郷は 1864 年に赦免され、将軍が退位し、政権が天皇に奉還された後に起こった 1868 年の明治維新で中心的役割を果たしました。新政権では要職に就きましたが、行き過ぎた西洋化などに対する考えの違いから職を辞しました。1877 年に明治政府に対する反乱を起こしましたが失敗し、二発の銃弾を受けたあと自害しました。西郷の人生は 2003 年のハリウッド映画「The Last Samurai（ラストサムライ）」の部分的なモデルとなりました。

西郷は日本でその理想主義と勇敢さを讃えられています。